

大阪市立大学 同窓会 報

第 12 号

発行：大阪市立大学同窓会

http://www.osaka-cu.net/

〒558-8585 大阪市住吉区杉本3丁目3-138 大阪市立大学 同窓会事務局(田中記念館内)
TEL: 06-6605-2113 E-mail: aalumni@ado.osaka-cu.ac.jp

新春特別座談会

今こそ建学の精神を

日本最古にして最大の公立総合大学・大阪市立大学は2017年、創立137周年を迎える。大学を取り巻く環境が激変し、市大も大阪府立大との統合計画が進む。年頭に際して「市大の進むべき道」をテーマに、学長荒川哲男、本学同窓会長児玉隆夫(元学長)、本学名誉教授(元滋賀大学学長)で16年に日本学士院賞を受賞した宮本憲一(3氏が鼎談した。司会進行は横山英治氏(商昭58・読売テレビチーフプロデューサー)と加藤正文氏(商昭63・神戸新聞論説委員)にお願いした。

○出席者

大阪市立大学理事長兼学長 荒川哲男氏(中央)
大阪市立大学同窓会長(元学長) 児玉隆夫氏(右)
大阪市立大名誉教授(元滋賀大学学長) 宮本憲一氏(左)



先行きに不透明感が増しているからこそ、「学問の受け売り、卸売りの市場ではなく、大阪市を背景とした学問の創造がなければならぬ」とうたった戦前の名市長・関一が掲げた建学の精神を現代に生かす必要性が指摘された。大学改革については拙速な議論を避け、

まずは8学部・2研究科が磨いてきたブランド力を高め、「自由の伝統を生かし、その独自性を発揮するときだ」と一致した。

今回、斯界の権威であり、内外の情勢に精通されたる先生に市大の進むべき道を縦横に論じていただきたいと存じます。まずは「市大とは何か」から議論しましょう。大阪の街と人に育まれた総合大学ですが、その学風は「良くも悪くもバラバラで自由」といえるでしょうか。

荒川「私は医学部に入学してからやはり自由闊達な気風、そしてクラブ(野球部)の先輩の温かさに触れて、どんどん大学が好きになりました。結果として長く在籍することになったわけですが、いま学長を務めていますが、学生がいきいきと夢と誇りをもって卒業してほしいと心から願っています」

宮本「私は1965年に商学部に着任し、定年の93年まで28年間、在籍しました。前任の金沢大学で助教授を

整備し、大学に寄贈することができました。学生、教職員の皆さんの憩いの場として使っていたとき、折に触れて五代の志に思いをいたし、それを引き継いでもらえればと願っています。今年は全学同窓会発足時から懸案であります会報の冊子化、ホームページの充実、名簿の整備について重点的に取り組みます。紙ベースの情報からデジタル情報へは時代の流れですが、まだしばらくは紙ベースの

2017 新年のご挨拶
平成29年

額の寄付金が寄せられたお陰をもちまして、銅像周辺を「五代スクエア」として

完成記念パーティーを成功裏に終えることができました。卒業生の皆さんから多

大阪市立大学同窓会
会長 児玉隆夫

卒業生の皆様、新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては新年を健やかに迎えにいられたことと思います。本年も有意義な一年となりますよう精一杯努めてまいりたいと思っております。

昨年は五代友厚銅像建立を予定通り進めることができ、3月19日に記念講演、除幕式、

情報も欠かせません。それと並行して同窓会のホームページを充実させます。各学部等同窓会や全国各支部の活動状況も含めて、最新の情報を豊富に盛り込めるようにしたいと思っています。そして、すべての活動の基本になる同窓会名簿をしっかりとした管理のもとで充実したものにしてまいります。本年もどうぞよろしくお願いたします。



児玉隆夫氏

「理学部は市大の自由、進頭の中にありました」

荒川「五代が市大のルーツだと知ったのはNHK連続テレビ小説『あさが来た』がきっかけです。その時まであまり知りませんでした。(朝ドラが始まる前に)同窓会が五代の銅像をキャンパス内に建てるという話になった。その人となりを学んでいくと、市大に



宮本憲一氏

取の気性、庶民性を体現していた。偉い先生もわかれと同じ目線で話してくれた。奇人変人の類の先生もおられたが、自由とばらばら(個性)が共存している状態。学問的には最高レベルを目指している研究者が多かった。学生と教員が身近な関係を保ち、話ができるというのはこれからも大切にしたい(伝統です)」。こうした自由の伝統を形作ってきた原点はどこにあるのでしょうか。源流の大阪商業講習所を設立した五代友厚、「都市は大学とともに、大学は都市とともに」を掲げ、ドイツのケルン商科大を模範に初の自治体立の大坂商科大の設立に尽力した市長関一、戦後の混乱期に初代学長を務めた恒藤恭、こうした先人たちの功績をどう評価されますか。

大学と都市の関係

関一の研究では宮本先生が道を開かれました。

宮本「関一は社会政策学派であったが、都市社会政策を創造し、住み心地よき都市」を理想とした。80年代にカリフォルニア大バークレーから歴史学の俊秀J・ヘインズさんが市大にやってきた。慌てて学内を中心にして「関一研究会」を結成しました。調査する中で、当時、ないと思われていた関一の日記が見つかった。市立大学をつくった意図はどこにあったのか? 建学の精神もそこから出てきたのではないのか? いろいろな発見がそこから出てきました」

「そもそも高等教育機関が大阪にはなかったのです。しかし、重化学工業、サービス業が発展するにつれて人材が必要だということに



荒川哲男氏

なり、1918年ごろから大阪にも大学が必要という声が高まってきた。たまたまそこに当時の東京高等商業学校(現一橋大教授だった関一が大阪を近代化するために科学的な政策を出すように当時の大阪市長池上四郎から呼ばれたわけです)」

「関一は、はじめは躊躇していた。しかし、ドイツのケルン商科大学のケースを見て、『市民が支えるような形でないと大学はできないのではないのか?』と感じるようになる。当時の大学は国、高等学校は府県、小中学校は市町村というのが国の考えだったが、粘り強く交渉して国に大学を委譲させて、市に大学設立を認めさせた。当時市が大学を持ったのは大阪商科大学だけなのです」

「関の書いた『市立商科大学の前途に望む』(1928年は名文であり、明確に市大の存在意義を表現しています。『単に専門学校の延長をもって甘んじて成らぬ事もちろんであるが、また国立大学の『ゴッピ』であってもならぬ。学問の研究が中心であるとともにその設立した市民の特質と、その大学の内容とが密接なる関係を保つべきことを忘れてはならない』つまり、大学がなければ都市はない。都市がなければ大学はないということです。貿易科、金融科、市政科の三つを置き、市政科は当時世界的に見てもほとんどない。それほど先駆的だったのです」

児玉「私が学長のころ、各学部に関一の建学の精神を(2面に続く)

(1面から続く)

新春特別座談会

掲げて『読んでほしい』と訴えていた。いま全学の同窓会が動き出しているわけですが、この理念を踏まえ、卒業生、現職の教職員とが力を合わせたような土壌を大学の中に核として作りたいと考えています」

将来見据える改革

「この伝統を受けていま荒川学長は『笑顔あふれる知と健康のグローバル拠点』というスローガンを掲げています」

荒川「大阪の抱える問題は高齢社会(日本全体とも共通)、世界のフロントランナーでもあるこの課題に対しての解決策をアカデミアンとしてどう出していくかが市大に求められているミッションです。大阪は平均寿命や健康寿命において



統合論議論が速

「いま、府立大との合併計画、大阪副都心構想など市大を巡る状況が揺らいでいる中でどう発展していけ

ばよいでしょうか。

荒川「合併は難しい問題ですが、われわれとしてはお互いの大学のブランド力を高めていくのがまず基本です。市大の知名度をもっと高めていく必要がある。言えるのは公立大学として市大・府大という二つの大学は『国立のコピー』ではない」という意味では共通している。その共通基盤の上で失ったものを出していくことになるでしょう」

「地域貢献と最先端の研究、この両方を実現することができる。それぞれの強みが統合した時に1+1=3になるようにできるか、それが重要な。当然、スケジュールはあるが、統合ありきではなく、ステークホルダーの意見も十分聞いた上で進めるという付帯事項があるので、拙速に進めるという風にはなりたくないではないか」

なるほど。その未来をどう描かれますか。児玉「大学統合についてだが、大学には独自のコンセプト、空気があります。合併は駒を並べ替えるようなものではないので、法人としては一つだが、一法人二大学で十分特色は生かせるし、教員間の交流を進めることが重要だと思う。その際、公立大学としての理念(コンセプト)は関一が打ち出したもので十分だ。大切なのは統合に際しては十分に時間をかけることだ。スケールメリットだけではなく、質、コンセプトをきちんと書き込んでほしい」

ブランド力の向上急げ

――兵庫では県立の神戸商

科大と姫路工業大、看護大が統合して兵庫県立大になった。それまで維持していたブランド力が落ちたという指摘がある。

宮本「合併すると優秀な教員が流出していく懸念がある。『大学の歴史』という本には『最も公立大学にふさわしいのは大阪市立大学』と書いている。都市に根差した大学の理念を大切にしたい。あわせて市大の学生が自分の大学に誇りを持てるような機会をもっと作るべき。卒業生で漫画家として活躍の方がいるが、彼女に大阪市大の漫画を描いてもらったらどうだろう。いいセンスを持っているので」

児玉「人間が学ぶときに二つの環境がある。一つはただれにも煩わされることなくものを考え、読む時間、一人でいる時間がどうしても必要。もう一つはいろんな人と接すること。課外活動でも見学でも、現場を見ていろんな人と接する。この二つの環境で人間は育つと思う。市大の学生にそういう環境で学んでほしいですね」

荒川「笑顔あふれる知と健康のグローバル拠点」のスローガンに沿って、総合大学ならではの幅広い『知』を最大限に結集させていきたい。この『笑顔あふれる』というのは学生を意識している。キャンパスが笑いで充たされないと大学としてはだめだと思う。学生が笑顔になれるようなキャンパスにしたい。そのためには夢と誇りが持てることが重要だ」

――あがっていきいます。

都市研究プラザ主催10周年国際シンポジウム

「復元力のある都市をめざして」を終えて

都市研究プラザ教授 岡野 浩

9月22〜24日、都市研究プラザによるこれまでの成果を総括し、次の10年への方向性を示す国際シンポジウムが大阪国際交流センターや各会場プラザ(豊崎・船場・西成、グランフロントおよび杉本キャンパス)で開催された。

初日には「100年続く植物園を」という掛け声でオープンした理学部附属

植物園の創設期での教職員努力、高知の地域振興をレクサスの竹ハンドルで取り組んだミロクテクノワッド社、信楽の陶板で作った大塚国際美術館の事例などが披露された。翌日には都市防災や植物社会デザインが、豊崎・船場・西成の現場プラザで討論された。最終日には「地域の復元力」、木・土の教育による復元

原文人氏講演会

「公益資本主義による成長戦略を大阪へ」

9月9日、毎日新聞オーバルホールで開催された。当日は、学生、卒業生、大学関係者以外に会社経営者など多くの方が来場、大盛況の中で始まった。

原氏の実践に基づく哲学は「公益資本主義」の理念であり、これは現在の株主資本主義が進めば、貧富格差を助長し、中流階級が減少する流れの動きに対し、新

ギター製作家3名による「木の復元力」が杉本で行われた。夏に今上天皇から皇居のメタセコイアが本学に贈られたが、返礼として日本の樹木でギターを作り、来年の国際シンポジウム(主

催・理学部附属植物園)で秋篠宮様にお贈りする案が3名の製作者から出された。また、大阪府立夕陽丘高等学校2年生による発表が高い評価を得た。

しい道としての経済システムを目指すとの考えが原点と言える。要するに、ROE(Return On Equity)からROC(Return On Capital)をベースに「会社は公器」として社会に関わる経営者、社員、顧客、株主のみならず地域社会への利益還元を進めるべきと強調した。

更に、「健康・医療分野の国家戦略特区に指定されている関西圏は世界有数の医療イノベーション拠点になり得る」と説明した。

続く対談には、荒川学長、塚本喜左衛門氏(ツカキ株式会社社長)、青木豊彦氏(株式会社アオキ会長、学長特別顧問)が加わり、公益に根ざした事業創造は地域で定着するか、コミュニケーション(まちと雇用)ひと、しごとの関係は如何か等についてお互いに意見交換が行われた。

第15回 ホームカミングデー開催

11月3日、本学杉本キャンパスにて第15回ホームカミングデーが開催された。今年は「健康」をテーマとして様々なイベントが行われ、各会場は訪れた同窓生で賑わいを見せた。

オープニングセレモニー

午前10時から学術情報総合センター(以下学情)10階会議室において、本学学長の荒川哲男がオープニングの挨拶を行った。10時15分からは同じ場所、学業成績の優秀な学生と本学の教育レベル向上に寄与した教員を表彰する顕彰式典が開かれた。11時30分からは場所を学情1階の野のはなハウスに移し、会員限定のOTクラブ総会並びに懇親会が開催された。

講演会

午後1時からは再び会場を学情10階会議室に戻し、「創業におけるイノベーションへの挑戦」と題して、小野薬品工業株式会社代表取締役社長相良曉氏(商 昭58)による講演会が行われた。講演では同社の主力製品オアシスポ(一般名・ニボルマブ)の開発への苦労やそれを克服するための努力、そして同社の創業にかける思いが話された。

全学同窓会・定期総会

会場はそのままで午後2時10分から全学同窓会の総会が開催された。総会では、全学同窓会の昨年度活動・決算の報告、今年度活動計画・予算の承認、今年3月

◇

このほか、当日は各学部同窓会並びにクラブ・サークルOBOEごとに学内各所でイベントが行われた。(北村健太 経済学部2年生)

上方文化講座 2016 特別編

人間国宝が語る人生論「苦勞のすすめ」

人間国宝 竹本住太夫 × 荒川哲男学長



「若き日は貧と苦勞をこそ」親は子の為に過保護は禁物」とお二

方苦勞を礼賛なされる。師は、「稽古は基本に忠実に素直に、人として謙虚に、畏れがちな日本語と大阪弁については「大事にせなあきまへん」。

学長は「今の学生は豊かさ故に返ってお金の使い方がアンバランス」大学へ入ってから何をやるかの問題意識を

(福井康子 文昭35)

五代友厚銅像建立 記念誌の発刊



大阪市立大学同窓会では、五代友厚銅像建立を契機に、五代友厚の志と進取の精神を末永く伝承するため、記念事業検討委員会が中心となり、「生誕180周年—五代友厚銅像建立記念誌」(A4判、カラー、36頁)を、発刊しました。

記念誌の内容は、五代友厚の生涯と業績、特に大阪での足跡を始め、五代関連の参考資料を多く揃えています。

又、銅像完成記念行事として記念講演会、銅像除幕式典、記念パーティー等の催事の模様を関連写真とともに掲載しています。

ご寄附いただいた方には全員配付致します。なお、記念誌は全学同窓会ホームページにも掲載しています。

(※) 記念誌4ページの年代表示(正:1836~1885年)に誤りがあり、お詫びと訂正をいたします。

大阪市立大学の建築を 「見る」×「語る」

11月4日、杉本キャンパスの建築を巡るキャンパスツアーと総合大学ゆえ可能な多分野の教員が集うトークセッションが開かれた。杉本キャンパスには、国の登録有形文化財であり、初期モダンズム運動の史跡である「号館」などが「生きた建築」として今も使われ続けている。

①安竹大学史資料室長は杉本移転から進駐軍の基地を経て全面返還されるまでの歴史について写真、資料を交えての解説。
②北村文学研究科教授は市大のモダンズム建築(伊藤正文設計)に影響を与えたブルーノ・タウトの考え方やデザインの特徴の説明。
③小池生活科学研究科准教授はカタチを築きむという観点で正方形と円を使ったデザイン性の解説。
④嘉名工学研究科准教授は杉本キャンパスと町づくりの視点から当時の関一市長時代の都市計画を含め説明された。

各プレゼンの後、倉方准教授が市大の歴史ある建築を活かし、今後のキャンパスづくりについての思いをまとめられ、最後に設計者伊藤正文さんのお孫さんが登場され祖父への思いを語り閉会となった。

その後、田中記念館ホールでトークセッションが開かれ、先生方のプレゼンから始まった。

各プレゼンの後、倉方准教授が市大の歴史ある建築を活かし、今後のキャンパスづくりについての思いをまとめられ、最後に設計者伊藤正文さんのお孫さんが登場され祖父への思いを語り閉会となった。

その後、田中記念館ホールでトークセッションが開かれ、先生方のプレゼンから始まった。

各プレゼンの後、倉方准教授が市大の歴史ある建築を活かし、今後のキャンパスづくりについての思いをまとめられ、最後に設計者伊藤正文さんのお孫さんが登場され祖父への思いを語り閉会となった。

その後、田中記念館ホールでトークセッションが開かれ、先生方のプレゼンから始まった。

各プレゼンの後、倉方准教授が市大の歴史ある建築を活かし、今後のキャンパスづくりについての思いをまとめられ、最後に設計者伊藤正文さんのお孫さんが登場され祖父への思いを語り閉会となった。

その後、田中記念館ホールでトークセッションが開かれ、先生方のプレゼンから始まった。

バンコク支部

8月26日にバンコク市内のレストランにて本学主催のホームカミングデーが開催されました。

バンコクには、2015年から国立チュラロンコン大学内に、大阪市立大学バンコク拠点が開設されていることもあり、3月3日に当時の学長も参加された開設記念レセプションに続く公式行事となりました。今回は、井上徹副学長と国際センターのComie様が本学からご訪泰。また、バンコク事務所スタッフ2名とチュラロンコン大学教授、タイ人の卒業生を交えての日本語と英語の飛び交うにぎやかな会となりました。

井上副学長による開会の挨拶から始まり、同窓会バンコク支部の幹事の乾杯の音頭で食事と歓談の時間が始まりました。バンコク支部からの参加者は7名でしたが、久しぶりに顔を出したメンバーもあり、学生時代の思い出話に花が咲きました。

当地タイでは、2014年から続く軍政の中、8月7日に新憲法草案の是非を問う国民投票があり、その直後に南部での連続爆弾事件が発生。政情と治安が決して落ち着いていない訳ではないのですが、首都バンコクでの市民生活にはよほどのことが無い限りあまり影響がなく我々同窓会メンバーも日々安全に暮らしています。これからも、本学の同窓会本部、国際センターと共に協力し合い、様々なイベントを開催できたらと思っています。

まず初めに、荒川理事長兼学長から最近の大学の様子を報告し、上海友好会の吉田耕平会長に御挨拶を賜りました。その後、来賓・国際交流アドバイザーのご紹介等を行った後、上海友好会の王亜副会長の乾杯の御発声により懇親会がスタートしました。本学卒業生、来賓、大学関係者等あわせて約50名の方に参加いただき、終始アットホームな雰囲気の中で懇親会は大いに盛り上がりました。

兼学長から最近の大学の様子を報告し、上海友好会の吉田耕平会長に御挨拶を賜りました。その後、来賓・国際交流アドバイザーのご紹介等を行った後、上海友好会の王亜副会長の乾杯の御発声により懇親会がスタートしました。本学卒業生、来賓、大学関係者等あわせて約50名の方に参加いただき、終始アットホームな雰囲気の中で懇親会は大いに盛り上がりました。

兼学長から最近の大学の様子を報告し、上海友好会の吉田耕平会長に御挨拶を賜りました。その後、来賓・国際交流アドバイザーのご紹介等を行った後、上海友好会の王亜副会長の乾杯の御発声により懇親会がスタートしました。本学卒業生、来賓、大学関係者等あわせて約50名の方に参加いただき、終始アットホームな雰囲気の中で懇親会は大いに盛り上がりました。

兼学長から最近の大学の様子を報告し、上海友好会の吉田耕平会長に御挨拶を賜りました。その後、来賓・国際交流アドバイザーのご紹介等を行った後、上海友好会の王亜副会長の乾杯の御発声により懇親会がスタートしました。本学卒業生、来賓、大学関係者等あわせて約50名の方に参加いただき、終始アットホームな雰囲気の中で懇親会は大いに盛り上がりました。

兼学長から最近の大学の様子を報告し、上海友好会の吉田耕平会長に御挨拶を賜りました。その後、来賓・国際交流アドバイザーのご紹介等を行った後、上海友好会の王亜副会長の乾杯の御発声により懇親会がスタートしました。本学卒業生、来賓、大学関係者等あわせて約50名の方に参加いただき、終始アットホームな雰囲気の中で懇親会は大いに盛り上がりました。

上海支部

11月1日夕刻、上海市内にて上海ホームカミングデーを開催しました。

この1年間の活動の状況について触れた後、東北6県に在住する同窓会メンバーにも広く呼びかけ活発な同窓会にしていきたいと今後の支部の発展に向けた決意を披瀝した。

この後、来賓の皆様は、大阪市の学長に就任されたばかりの荒川哲男新学長が学長としての抱負を述べるとともに大学の近況と今後の発展に向けた計画・展望などを語られた。続いて、全学同窓会の西口克彦副会長が親しみやすい口調で自身の略歴について触れながら全学同窓会の発展への協力を呼びかけられた。そして、有恒会の牧野忠廣副会長の挨拶の後、

和田稔元支部長の音頭で乾杯し、参加者全員による近況報告がなされた。皆様、学生時代に戻ったような楽しい雰囲気の中で、近況を話され、笑いとお感動の中、とても盛り上がりのある会合となった。

総会は、またたく間に予定の時間となり、最後にこの総会で副支部長に就任した杉山雅胤副支部長が「明年の総会にも再び元気に集い合いたい」と述べ、閉会の挨拶を行った。

支部出席者は次の通り。石橋信勝、扇田孝史、吉原幸一、鈴木ハツヨ、和田稔、京谷隆、石橋敏明、山原朋子、杉山雅胤、早川公康

開催となりました。月末の金曜夜です。集まりに不安もありましたが、結果は例年とさほど変わらぬ参加者数となりました。これまでも自己紹介が行なわれた。その後、支部長からフロアジェクターを使用して、「姫路しらすぎ支部」設立の経緯と準備期間中に実施したイベント「五代友厚ゆかりの地巡り」及び「宇治平等院と伏見酒蔵巡り」など、活動内容の報告があり、約1時間程度で総会は無事終了した。

その後は同じフロアにあるレストラン「イーグレ・キャッスルミレ」に会場を移し、午後5時から懇親会を実施。先ず、龍野幹事長による乾杯の音頭に始まり、その後は会員相互が歓談し、卒業年度・学部が違っても、同じ大学で学んだ者同士、共通の話題もあり、懇親会を通して会員間の親睦がより一層図れたものと確信出来る内容であった。

今後の当支部の活動課題は、「会員の増員策」及び「活動内容の充実」等々であるが、他の支部の活動状況を参考にしながら、内容のある支部活動を推進・継続することを当面の目標としたい。出席者は次の通り。森本哲郎(商昭44)、松浦康(松浦康裕 経昭50・支部長)

東北支部

爽やかな秋晴れとなった10月1日12時30分より仙台市のホテル白萩にて「大阪市立大学同窓会東北支部総会」が開催された。

総会は、早川公康幹事の司会進行で和やかに進められた。最初に、昨年の総会で新しく支部長に就任した石橋信勝支部長が、東北支

部のこの1年間の活動の状況について触れた後、東北6県に在住する同窓会メンバーにも広く呼びかけ活発な同窓会にしていきたいと今後の支部の発展に向けた決意を披瀝した。

この後、来賓の皆様は、大阪市の学長に就任されたばかりの荒川哲男新学長が学長としての抱負を述べるとともに大学の近況と今後の発展に向けた計画・展望などを語られた。続いて、全学同窓会の西口克彦副会長が親しみやすい口調で自身の略歴について触れながら全学同窓会の発展への協力を呼びかけられた。そして、有恒会の牧野忠廣副会長の挨拶の後、

和田稔元支部長の音頭で乾杯し、参加者全員による近況報告がなされた。皆様、学生時代に戻ったような楽しい雰囲気の中で、近況を話され、笑いとお感動の中、とても盛り上がりのある会合となった。

総会は、またたく間に予定の時間となり、最後にこの総会で副支部長に就任した杉山雅胤副支部長が「明年の総会にも再び元気に集い合いたい」と述べ、閉会の挨拶を行った。

支部出席者は次の通り。石橋信勝、扇田孝史、吉原幸一、鈴木ハツヨ、和田稔、京谷隆、石橋敏明、山原朋子、杉山雅胤、早川公康

北海道支部

9月30日、札幌第一ホテルで平成28年度北海道支部総会・懇親会が開催されました。

本学から荒川哲男学長を御迎えしました。全学同窓会からは児玉隆夫会長、有恒会は牧野忠廣・森本喬副会長がご越しくさいました。道内は石黒直文支部長含め6名。総勢10名の参加でした。

北海道支部は隣の東北支部と連携し、総会日程を連続させることで大阪からの来賓が出席しやすいよう、この数年は日程を調整しております。今年は東北支部が10月1日とのことで、翌2日(日)という選択肢もありましたが、支部長と私(矢橋)が所属するロータリークラブの地区大会がこの日であるため、前日の9月30日

開催となりました。月末の金曜夜です。集まりに不安もありましたが、結果は例年とさほど変わらぬ参加者数となりました。これまでも自己紹介が行なわれた。その後、支部長からフロアジェクターを使用して、「姫路しらすぎ支部」設立の経緯と準備期間中に実施したイベント「五代友厚ゆかりの地巡り」及び「宇治平等院と伏見酒蔵巡り」など、活動内容の報告があり、約1時間程度で総会は無事終了した。

その後は同じフロアにあるレストラン「イーグレ・キャッスルミレ」に会場を移し、午後5時から懇親会を実施。先ず、龍野幹事長による乾杯の音頭に始まり、その後は会員相互が歓談し、卒業年度・学部が違っても、同じ大学で学んだ者同士、共通の話題もあり、懇親会を通して会員間の親睦がより一層図れたものと確信出来る内容であった。

今後の当支部の活動課題は、「会員の増員策」及び「活動内容の充実」等々であるが、他の支部の活動状況を参考にしながら、内容のある支部活動を推進・継続することを当面の目標としたい。出席者は次の通り。森本哲郎(商昭44)、松浦康(松浦康裕 経昭50・支部長)

山陰支部

10月16日11時より、鳥取県倉吉市の倉吉シティホテルにて、総会を開催いたしました。倉吉市は同窓会会員の石田耕太郎氏(法S45卒)が市長を務めている、白壁土蔵群を中心とした、住み易き日本一の落ち着いた地方都市です。大阪から遠路、来賓として井上徹大阪府立大学理事・副学長、児玉隆夫全学同窓会会長、小林俊介有恒会副会長に来て頂き、小規模ながら楽しい会を開催することができました。

支部長挨拶のあと、井上理事・副学長から大阪府立大学の現状について講演を頂き、4月から就任された荒川理事・学長の教育・研究についての重点3戦略と大阪府立大学との連携の話聞かせて頂き、大学の未来へ思いを馳せることが出来ました。懇親会の乾杯の挨拶では児玉同窓会会長から「五代友厚像の建立」の経緯と式典でのハプニング、ディーン・フジオカさんが突然参加したお話を聞かせて頂き、楽しい会食がスタートしました。

山陰支部は会員数が少なく、島根県と鳥取県の東西300kmに及ぶエリアであるため、参集していただく

姫路支部

8月27日に、有恒会本部より森本副会長並びに植田事務局長出席のもと、第1回「姫路しらすぎ支部」総会を開催、ようやく国内で27番目、兵庫県内では神戸支部、宝塚支部に次いで3番目の支部としての公認を受け、正式に発足する運びとなった。

総会には出席者14名、支部長の挨拶に引き続き、本部来賓2名から挨拶を兼ねて同窓会の現状等について話を伺った。

次に、当総会には今回が初参加となる名(奇しくも当支部最年長の森本哲郎氏と最年少の朝夷亮介氏)の紹介があり、他の各会員からも自己紹介が行なわれた。その後、支部長からフロアジェクターを使用して、「姫路しらすぎ支部」設立の経緯と準備期間中に実施したイベント「五代友厚ゆかりの地巡り」及び「宇治平等院と伏見酒蔵巡り」など、活動内容の報告があり、約1時間程度で総会は無事終了した。

その後は同じフロアにあるレストラン「イーグレ・キャッスルミレ」に会場を移し、午後5時から懇親会を実施。先ず、龍野幹事長による乾杯の音頭に始まり、その後は会員相互が歓談し、卒業年度・学部が違っても、同じ大学で学んだ者同士、共通の話題もあり、懇親会を通して会員間の親睦がより一層図れたものと確信出来る内容であった。

今後の当支部の活動課題は、「会員の増員策」及び「活動内容の充実」等々であるが、他の支部の活動状況を参考にしながら、内容のある支部活動を推進・継続することを当面の目標としたい。出席者は次の通り。森本哲郎(商昭44)、松浦康(松浦康裕 経昭50・支部長)



看護系同窓会 よつば会

「先輩との交流会」の取り組み

看護系同窓会「よつば会」は1949年に創設された大阪市立厚生学院から現在の大阪市立大学医学部看護学科の卒業生・在校生から成る歴史ある同窓会です。

11月19日には、保健師・訪問看護師・産業保健師・養護教諭と様々な職種で活躍されている同窓生を招き「よつば会同窓生の地域活動」をテーマとして講演会が開催されました。



若い同窓生が自身の業務や経験を通じて、地域保健や精神保健など教育活動への取り組み、保健師・養護教諭として病院など様々な場で活躍されているため、他職種との繋がりを育てるよい機会になりました。

また同窓生の活躍が地域における健康維持・増進に大きく貢献していることを実感し、よつば会のさらなる発展が期待される講演会となりました。

（よつば会役員・松裏豊）

日本医史学会関西支部主催 今年度秋季学術集会

11月13日、大阪市立大学医学部後援で医学部学舎で開かれた。

当日の特別講演は大阪市立大学名誉教授・藤森貢先生による演題「局所麻酔の生による演題」局所麻酔の

変遷」。要旨は局所麻酔の歴史は古代に遡り、主に薬草・植物による鎮痛・鎮静・催眠・制吐・防虫などの医療が連綿と存続することほど、の国にもあるとの話で、最

（広報委員・田中祐尾）

「文学部の逆襲―漂流する現代を生きのびるためのガクモン」

グランフロント大阪ナレッジキャピタル（11月12日）

最近、大学に求められる役割が世の中の「役に立つ」ことに偏っているのではないかと。文学部や人文科学の現代における役割とは何か。文部科学省が「文学部不要論」と見まがうような通知をしたことも受けて、根源的な問いに対する文学部なりの回答を出すべくこの催事を挙行しました。当日は、学内外の論客を招いて『文学部は役に立たない』の膝を交えて議論したり、受験相談が活発に行われたりしました。（文学研究科副研究科長・仁木宏）

第3回 中日大学学生 芸術交流展

日本と中国の学生が合同で行う芸術展覧会で、第3回は上海で行われます。

今回から日本側は大阪府大に代わり、旧三商大のスキームで参加予定。本学は例年通り青桃会（美術クラブ）が参加します。中国側は従来通り上海大学。開催日は2017年3月29日～4月4日。

（編集部）

平成28年度理学部 同窓会総会

11月3日、大学のホームカミングデーに合わせて、総会が田中記念館内の同窓会交流室で開催された。同窓会の活動内容、会計報告が行われた後、同窓会のホームページの変更についての報告があった。会議は皆を懐かしむ和やかな雰囲気でしたが、同窓会役員の高齢化が進んでいることが

話題に上がった。

市村会長からは、同窓会の若返りを図るために若い世代の参加を検討しているとの話がありました。

又、ホームページ管理システムの更新に応じて同窓会組織の強化のために同窓会名簿を一層充実することと申し合わせた。総会終了後、学長主催のウェルカムパーティーに参加し、秋のひと時を楽しんだ。

（広報委員・佐藤和信）

第19回 大阪市立大学 ゴルフコンペ



OCUSA主催の第19回大阪市立大学ゴルフコンペが10月27日に奈良市の飛鳥カントリー倶楽部に開催されました。今回も大阪市大のホームカミングデーの関連行事として、同窓会、教育後援会からも参加を頂き、18組68名が集い楽しい一日を過ごしました。

個人戦は柔道部清光会の中川邦彦氏が初優勝され、有恒会の森本副会長から学長杯が授与されました。準優勝は陸上競技部陸友会の宇野昭正氏、第3位はゴルフ部イーグル会の小園大成氏でした。栄えあるベストグロス賞はゴルフ部の横山喜重氏が獲得されました。

（OCUSAゴルフコンペ担当 島田俊春 経昭47）



大阪市立大学 生活科学部の歴史

3

岩堂美智子（家政学部昭和40年卒）

とこの投稿をお読みの貴方には生活科学部出身の友人・知人がいますか？学生時代だけでなく年々安心・安全の生活が厳しくなってきた現代社会において生活科学部のどの専攻の卒業生も貴重な人材であると思ふ。ぜひ同窓の縁を復活させて人脈を築き、協力して少子高齢社会を豊かに送っていただきたい。

1990年(平成2年)に従来の学部の5学科は「食品栄養科学科」「生活環境学科」「被服と住居が統合」「人間福祉学科(児童と社会福祉が統合)の3学科に再編成された。後に生活環境学科は名称を「居住環境学科」に変更(2000年)、人間福祉学科は心理臨床コースと社会福祉コースの2コース制を導入することになった(2007年)。

学部創立50周年を迎えた1999年(平成11年)には、佐藤昌子氏(元教授・昭和38年(被服卒)の編集委員長のものとで記念誌「生活科学の五十年」が、また生活科学最新線90のトピックが北浦かほる氏(名誉教授・昭和38年(住卒)の編集委員長のものとで出版された。前者には学部・学科・各講座(研究室)の歴史や退職された教員の熱いメッセージが詰まっています。また後者に



記念誌

た教員の熱いメッセージが詰まっています。また後者に

◆編集後記◆

▼トップ紙面では荒川学長を囲み新春座談会を開催した。大学統合を控えて、都市とともに歩む本学の進むべき道など色々と多岐にわたるお話しがあった。大変示唆に富む内容であった。(編集人)



現在の学舎全景

新しいヒューマンライフの創造に貢献する、と紹介している。また2007年度の同窓会報では小西洋太郎氏(元研究科長・名誉教授・昭和48年(食卒)が、大阪市の財政難から専任職員数の減少など悪化する研究教育環境の中、生活科学を可視化した「QOLプロモーター育成」や「臨床栄養師の育成」など学部の枠を超えた地域貢献研究により競争的外部資金の獲得に奮闘努力した結果を報告している。大学院には社会人大学院生や外国人留学生の増加も目立つようになった。大学の地域貢献が一層求められる昨今である。

(株)ブライダルは大阪市立大学同窓会の皆様の「結婚」を応援します。

39年の実績

(株)ブライダルは今まで法人、官公庁、各大学会報誌などで数多くの方々の、結婚のお世話をさせて頂いております。少子化問題にも「結婚」という形で、社会に貢献できる企業を目指しており、この度、賛同を得て「大阪市立大全学コース」を設立致しました。この同窓会報を見たとおっしゃって下されば、同窓会の皆様はもとより、ご家族の方でも特別に「結婚」を特典付(登録料100%OFF)にてお世話させて頂きます。



大阪市立大全学コース

登録料 100% OFF

●ブライダルコース ¥226,800 ▶ ¥194,400 etc.

●エクセレントコース ¥388,800 ▶ ¥356,400 etc.

価格は登録料・会員サポート費・年会費(12回分)の税込総額です。

携帯サイト <http://www.bridal-vip.net/m/>

右のQRコードにて携帯サイトに簡単にアクセスできます。(一部対応しない機種がございます。)



株式会社 **ブライダル**
Network 東京・横浜・湘南・豊橋・名古屋・岐阜・大阪

PC・スマートフォン <http://www.bridal-vip.co.jp>
東京本社 〒163-0528 東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル28F TEL.03-5325-5505
大阪支社 〒530-0001 大阪市北区梅田1-12-17 梅田スクエアビルディング6F TEL.06-6442-0666

お問い合わせ 0120-415-412
(月曜定休)
フリーコールがご利用できない地域があります。その場合は東京本社へお願いします。